



2026年度 須磨学園中学校入学試験

国 語

第 2 回

(注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、  
受験番号シールを貼<sup>は</sup>り、受験番号と名前を記入しなさい。

1. すべての問題を解答しなさい。
2. 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。
3. 解答は、1 行の枠内に 2 行以上書いてはいけません。また、字数制限のある問題につ<sup>づ</sup>いては、記号や句読点も 1 字と数えることとします。
4. 試験終<sup>しゅうりょう</sup>了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

須磨学園中学校

※この冊子は再生紙・ベジタブルインキを使用しています。

一

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

何かが気にかかって不安でしかたのないときや、何かにとってもコマ<sup>a</sup>ったときに、人はあれこれ考えはじめる。でも、まわりを恨<sup>うら</sup>んだりじぶんを責めたりしているだけで、真正面からじぶんに向かって問いかけることはしないことが多い。

「どうしてオレはあんなことをしてしまったのか？」と心のなかでいうけれど、ほんとうにそう問うてはいない。「やってしまっ<sup>た</sup>じぶん」を裁いたり責めたりするだけで、「ほんとうのじぶん」はそんな人間ではないはずだ、とつぶやいている（やってしまっ<sup>た</sup>じぶんにも言い分はあるはずなのに、ね）。

心がひとつの感情に固着してしまつて静かにじぶんを見つめることができないときには、考えるのをやめるのが大切だと思う。まずは「いまじぶんは物事を考えられる状態にあるかどうか」と考えて、できないと思つたときには、体操したり遊びにいったりするのがいい。

でも、〈自覚的にじぶんの心を見つめてたしかめようとするこ<sup>と</sup>〉は、それができるときには、とても有効な方法だ。

わたしは何を恐<sup>おそ</sup>れているのか。何に怒<sup>おこ</sup>っているのか。何をともめているのか。じぶんのなかに動いている感情を、ていねいに見ていく。あることをとめるじぶんがあり、カタホウ<sup>b</sup>にそれを恥<sup>は</sup>ずかしく思つて認めたくないじぶんがいるかもしれない。でも、

どんなじぶんもそのままいったん受けいれてみる。——そして見つめるなかから、じぶんの意志がしだいにかたちをなしてくるのを待つ。

ていねいにじぶんの心を聴<sup>き</sup>き取<sup>と</sup>つて、深い納得<sup>なとく</sup>のもとに生きていこうとすること。いつもできるわけではないけれど、ぼくはこういう方法をとつてきた。

ところで哲学<sup>てつがく</sup>は、昔から、普遍的<sup>ふへんてき</sup>・一般的<sup>いっぱんてき</sup>な問いを發してきた。たとえば〈真理とは何か。真なる知識は可能なのか〉〈美とは何か。人はなぜ美をもとめるのか〉〈正義とは何か、人はキョウセ<sup>c</sup>イされなくても正義をもとめるだろうか〉など。

つまり「わたしが美しいと感じるのは何か」ではなくて、「美<sup>A</sup>とは何か」と問うのだ。でも、そうやって問うことにいったいどのような意味があるのだろうか。普遍的に問うことは、わたし個人を置き去りにして、高みをめざして昇<sup>のぼ</sup>ろうとするみたいだ。

だから、こんな意見も出てくる…普遍的な真理、普遍的な美、普遍的な正義。そんなものがあるはずもない。いや、あつたとして、「このわたし」が生きていくには関係ない。普遍的なものをとめようとするのは、うさんくさい。「じぶんに問う」ことには意味があつても、「普遍的に問う」というのはぼくには必要ないな。

——ちょっと待ってください。「普遍的に問う」ことと、「普遍的な美や正義があらかじめ存在すると思ひこんだうえで、そこ

に到達<sup>とうたつ</sup>しようとする」ことは、ちがうはずだ。たしかに哲学者たちのなかには、普遍的な真理・美・正義があらかじめ存在すると信じていた人もいたけれど、それはあきらかにひとつのセン<sup>d</sup>ニュウケン<sup>e</sup>であつて、ま<sup>B</sup>ずそのことじたいが検討されるべきこと<sup>B</sup>だろう。

場所と時代を超<sup>こ</sup>えた、美の普遍的な基準など存在しない、と思う人は多いはず。たとえば、平安時代の美人は引き目・鉤鼻<sup>かぎばな</sup>だつたけれど、ゲンタイ<sup>e</sup>の美人の基準とはずいぶんちがう。けれど、人の姿や自然の風景に魅<sup>み</sup>せられて、おもわず「きれいだなあ」といつてしまう。そのことじたいは、場所と時代を超えて、人が人であるかぎり変わらないことではないだろうか。さらに、美しさのなかに見ているもの——清らかさ、やさしさ、エロティックな魅力<sup>みりょく</sup>、キリリと引き締<sup>ひ</sup>まつた感じ、などなど——にも、深い共通性があるのではないだろうか（でなければ、外国の小説や物語に美しい人の描写<sup>びやうしや</sup>が出てきても、まったくピンとこないはず）。

つまり、美に普遍的な基準はなくても、美しいと感じることは普遍的な現象である。同じく、正義の普遍的基準は存在しなくても、「あいつはただしい！／あいつはなんてひどいことをするんだ！」と感じるのは、普遍的な現象だといえる。

その意味で、真理<sup>c</sup>や美や正義は、どんな人間の生にも関わっているもつとも基本的なことがらなのだ。

それらについて問うことは、だから、〈人間とはどういう存在なのか〉を問うことに他ならない。哲学のもつとも根本のテーマは人間であり、その問いはすべて、〈人間とは何か〉<sup>D</sup>をめざすのである。

人間はもちろん一人ひとりが異なつた独自の存在だけれど、その生き方には深く共通するものもある。古代人の文章や絵や彫刻<sup>ちやうてき</sup>に、異なつた文化をもつ人びとに、同時代<sup>とく</sup>にくらすさまざまな人びとに接することは、じぶんの感受性や価値観がいかに特別な条件づけられたものであるかを發見することであり、それとともに、人間としての普遍的なもの、喜怒哀楽<sup>きどあいぐ</sup>を生きる同じ人間としての共感を見いだすことだ。

《哲学ゲーム》は、個<sup>こ</sup>をムシ<sup>g</sup>して普遍の高みに昇ろうとするものではない。じぶんを理解しようとすることから始まり、じぶん以外の他者を理解しようとし、そしてそれらを「人間存在そのものの理解」へとつなげていく。また逆に、だれかがつくつた「人間存在についての理論」の側から、他者やじぶんを照らしかえそうとする。—— X から Y へ、逆に Y から X へ、たえず行ったり来たりするプロセス。《哲学ゲーム》は、こういうプロセスなのである。

（西研<sup>にしけん</sup>『哲学のモノサシ 考えるつてどんなこと？』による）

一 設問

問一 次の文を本文中に挿入するとき、最も適当な箇所を本文中から探し、挿入直後の五文字を書き抜きなさい。

美という例で考えてみよう。

問二 「『美とは何か』と問うのだ」――線部A」とありますが、これはどういうことを言っているのですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 哲学は、個人の情動や具体的な経験を対象とするのではなく、概念自体の追究を目指す学問であるということ。
- 2 哲学は、普遍的な問いを発して高みを目指しているように見えるため、その存在意義が問われているということ。
- 3 哲学は、絶対的な美しさの基準を研究するのではなく、相対的な美しさの基準を探究する学問であるということ。
- 4 哲学は、真理や美や正義などの抽象的なことを扱うため、個人を置き去りにしていると誤解されてしまうということ。

問三 「まずそのことしたいが検討されるべきことだろう」――線部B」とありますが、これはどういうことを言っているのですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 普遍的な真理・美・正義などが存在することは自明の理ではないということ。
- 2 普遍的な真理・美・正義などが存在すると信じる哲学者は、前衛的な人間だということ。
- 3 普遍的な真理・美・正義などの存在を証明することが先決であるということ。
- 4 普遍的な真理・美・正義などの存在を証明することは現在の学問体系では不可能だということ。

問四 「真理や美や正義は、どんな人間の生にも関わっているもつとも基本的なことがらなのだ」――線部C」とありますが、なぜそのように言うのですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 独自の存在である人間の生き方には共通点があるように見えるが、実際には個人の感受性や価値観は特別に条件づけられたものであるから。
- 2 特定の人物や芸術作品が、世界中で美しいと評価されるように、真理や美や正義が見いだされる対象はどの文化圏においても共通しているから。
- 3 本来は真理や美や正義の基準は個人で異なるが、集団が形成されると没個性化がおこって均質化され、その基準が普遍的なものとして共有されるから。
- 4 真理や美や正義の基準は歴史的、文化的に多様なものであるが、それらを志向したり感受したりすることは、すべての人間に共通する営為だから。

問五 「人間とは何か」をめざすのである」――線部D」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 人間は時代の変化に応じて感受性や価値観を変化させているように思えるが、喜怒哀楽という感情を有するという事実 は永遠に不変であるということ。
- 2 哲学における普遍的な問いは、すべての人間に共通することとを考察するものであり、それは人間という存在の理解を目指すことにつながるということ。
- 3 哲学という学問は、喜怒哀楽を生きる同じ人間としての共感を見いだすことを通じて、今を生きる人びとの特徴を明らかにするものであるということ。
- 4 多種多様な特性を持つ人間という存在の感受性や価値観における共通点を発見することが哲学の最大の目的であり、今はまだ道半ばであるということ。

問六 ☒ X、☐ Y に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- |   |   |     |   |     |
|---|---|-----|---|-----|
| 1 | X | 個別性 | Y | 普遍性 |
| 2 | X | 他者性 | Y | 人間性 |
| 3 | X | 内向性 | Y | 外向性 |
| 4 | X | 主観性 | Y | 客観性 |
| 5 | X | 抽象性 | Y | 具体性 |
| 6 | X | 一般性 | Y | 唯一性 |

設問は、裏面に続きます。

【資料】

そこで、こう考えてみよう。たった

「個人」という意味の英語の語源は、「分けられない」という

分人とは、対人関係ごとの様々な自分のことである。恋人と

分人は、相手との反復的なコミュニケーションを通じて、自

一人の人間は、複数の分人のネットワークであり、そこには

（平野啓一郎『私とは何か「個人」から「分人」へ』）

線部の表現と【資料】は「①」という考え方が

②  
「という点で違いがある。」

1 人間同士の心が通じ合うことはない

### 3 中核を為す人格の存在を認めるか否か

## 5 自由意志の存在を認めるか否か

## 6 価値判断を他者に委ねるべきか否か

下書き用（※これは解答用紙ではありません）

~~~~~線部 a ㄣ g のカタカナに相当する漢字を楷書で書き  
なす。

b  
カタホウ

d  
センニユウケン

f  
ク  
(らす)

g  
ムシ

二 次の文章は重松清『カシオペアの丘で』の一節です。末期の  
のさんと診断された「僕」は、妻の「恵理」とともに、息子  
で小学四年生の「哲生」のサッカーの試合を見に来ていまし  
た。しかし、試合の途中で「僕」は体調を悪化させ、大きく  
咳き込んでしまい、「恵理」から家に帰ることを提案されま  
す。以下はそれに続く場面です。これを読んで、後の設問に  
答えなさい。

いつのまにか、ベンチから背番号32の姿は消えていた。恵理も  
それに気づき、「あれ？」と声をあげて……その声が、小さな歓  
声に変わった。

哲生はベンチから離れて、ウォーミングアップをしていた。一  
緒に走っているのは二人。残りのサブのメンバーはベンチに座っ  
たままなので、形だけの準備ではない。

「出番、あるんじゃない？」

「うん……」

「あるよね？ 哲生の出番、あるよね？」

恵理は胸の前で手を組んで、祈った。

僕がそれをただぼうっと見ているのに気づくと、「わたし一人  
にやらせないの」と笑ってにらむ。「ほら、あなたもお祈りして」  
紳さまや仏さまに祈るのは嫌いだ。ずっとそう思っていた。だ  
が、「二人でお祈りしたら、気持ち、絶対に伝わるって」と恵理  
に言われると、自分でも意外なほど素直に、胸の前で手を組むこ  
とができた。

「哲生はパパにほめられるのがいちばんうれしいんだもん、だい  
じょうぶ、出番あるわよ」

「試合に出なくなたって、いくらでもほめてやるって」

たとえばさっきの「ファイトーッ！」の声——僕はほんとう  
にうれしかったのだ。

「でも、出ないよりは出たほうがいいでしょ？」

「まあ……」

「じゃあ、がんばってお祈りしなきゃ」

恵理は組んでいた手はずし、今度は合掌にした。こうべを垂  
れる。目をつぶる。ほんとうは哲生ではなく僕のために祈ってく  
れているのだろう。哲生がサッカーをするところを見るのは、こ  
れが最後になるかもしれない。僕も祈る。僕のためではなく、哲  
生のために。パパの前でカッコいいところを見せたんだ、という  
思い出を一つでも多くあいつに残させてやってください、と紳さ  
まに祈る。

ウォーミングアップの途中で、相手チームに五点目が入った。  
監督は三人の控え選手を揃ってベンチに呼び戻し、手短に指示を  
与えてピッチに送り出した。背番号32もいる。大柄な先輩二人に  
挟まれ、小さな体をはすませるように走って、審判のもとへ向かう。

「ねえ、あなた、出るのよね？ 哲生、出るってことよね？」

「……ああ、出るんだ」

プレイが途切れた。主審が選手交代を認めた。少し悔しそうな  
顔でベンチに下がる先輩とハイタッチを交わして、哲生はピッチ

に駆け込んだ。

恵理は立ち上がって拍手を送り、「テッちゃん、がんばって！」  
と声をかけた。僕も座ったまま、手を大きく上げた。哲生が振り  
向く。まかせてよ、と言いたげに笑って、また全力疾走でポジ  
ションにつく。

いいぞ、哲生——。

がんばれ、哲生——。

胸が熱くなる。生きてるんだなあ、と思う。これから、この子  
は、長い人生を生きていくんだなあ、と噛みしめる。

プレイが再開する。哲生はボールを追って走る。相手チームの  
選手に肩をおつけられ、転びそうになりながら、走る。ボールが  
逆サイドに振られ、素早く身をひるがえして、走る。こぼれ球を  
拾った。ドリブルに出た矢先、相手の選手にうまく体を入れら  
れ、ボールを奪われた。追いかける。顔を真っ赤にして、走る。

哲生——。

がんばれ、哲生——。

ずっと見ていたい。おまえが大きくなって、好きなひとができ  
て、おとなになるまで、ずっと見ていたい。

哲生——。

死にたくないよ、パパは——。

息が苦しい。胸が急に半分のサイズになってしまった。息を深  
く吸い込めない。

波が迫ってきた。いままでとは違う。大きな波が僕を呑み込  
む。頭がクラクラする。気持ちが悪い。胸が痛い。締めつけられ

る。波は去らない。僕を呑み込んだまま、どこにも流れ去ってく  
れない。咳き込んだ。胸の中の息をすべて吐き出しても、新しい  
息を吸い込めない。頭が痛い。溺れた。波に吞まれて、海の底へ  
沈んでいく。

風景が揺れながら、どこかに吸い込まれていくように遠ざかる。

哲生が揺れる。哲生が遠ざかる。

まぶしい光が目を灼いて、次の瞬間、僕は闇の中に落ちた。

「テッちゃん、がんばれーっ！」

恵理の声だけが、聞こえた。

夢を見た。たぶん、それは嘘だ。

懐かしい街にいた。懐かしい友だちがいた。たぶん、それも嘘だ。  
夢の中で、僕たちは遊園地にいた。夜の遊園地で、きらめくイ  
ルミネーションに彩られたメリーゴーラウンドを見つめていた。  
僕はもう少年ではなかった。彼女も、もう少女ではなかった。ぜ  
んぶ嘘だ、たぶん。

恵理に揺り動かされて意識を取り戻したとき、涙が頬を伝って  
いた。

そのことだけが、ほんとうだった。

注 彼女：「僕」が以前に遊園地で出会った「真由」という名  
前の少女のことを指している。

二の設問

問一 ~~~~~線部 a・b の語句と最も意味が似ているものを、次の各群の中から、それぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

a 素直

- 1 専心
- 2 慢心
- 3 求心
- 4 壮心
- 5 虚心

b 懐かしい

- 1 ストラテジー
- 2 コスモロジー
- 3 バイオロジー
- 4 アンソロジー
- 5 ノスタルジー

問二 「その声が、小さな歓声に変わった」（——線部 A）とあ

りますが、その状況の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 やる気に満ちた「哲生」の様子を見た一部の観客が、「哲生」を応援し始めた。
- 2 「哲生」がベンチを離れて出場の準備をしていることに気づいた「恵理」が、喜びの声を上げた。
- 3 「哲生」が出場に向けて準備する様子を見て、会場中から黄色い声援が沸き起こった。
- 4 試合を熱心に観戦する「恵理」に対して、「哲生」が自分の出場を知らせるかのように叫んだ。

問三 「ほんとうは哲生ではなく僕のために祈ってくれているのだろう」（——線部 B）とは、どういうことですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「恵理」は「哲生」が試合に出場できるように祈っているのではなく、小学四年生ながらに試合で活躍する「哲生」の姿を見た「僕」が生きる希望を取り戻すことを期待し、「哲生」が試合で活躍できるように祈っているということ。
- 2 一見すると、「哲生」の出場を神さまにお願いしているように見える「恵理」であるが、本当は「哲生」の思いを叶えるために祈っているのではなく、末期のがんに冒される「僕」の病気が完治するように祈っているということ。
- 3 「恵理」は「哲生」が試合に出場することによって、未来が好転して「僕」の病状がよくなるのではないかと期待して祈っているため、実際には息子である「哲生」のためではなく、配偶者である「僕」のために祈っているということ。
- 4 一見すると、「恵理」は「哲生」が試合に出場できるように祈っているように見えるが、実際には「哲生」のためではなく、今回が試合を観戦する最後の機会になるかもしれない「僕」が息子の出場する姿を見られるように祈っているということ。

問四 「まかせてよ、と言いたげに笑って、また全力疾走でポジションにつく」（——線部 C）とありますが、このときの「哲生」の心情として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 母親だけではなく重病を患う父親も試合観戦に来ていると気づき、その愛情の深さに感動している。
- 2 この試合の勝敗は、自分の活躍にかかっていると気づき、試合に集中しようとしている。
- 3 小学四年生でありながら、上級生とともに試合に出場できることに對して、優越感を抱いている。
- 4 母親と父親の応援を受け、両親の眼前で活躍ができるようにやる気をみなぎらせている。

設問は、裏面に続きます。

問五 「ずっと見ていたい」（——線部D）という言葉には、「僕」のどのような思いが込められていますか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 必死に頑張る息子の姿を見たことで感じた、試合が終了するまでは力尽きたくないという抵抗心。
- 2 徐々に体調が悪化する中で感じた、これまで家族との関わりをないがしろにしてきたことへの後悔。
- 3 下級生ながら活躍する息子の姿を見て感じた、自らも諦めることなく病と戦おうという決意。
- 4 死を目前にした状態であることで感じた、息子の成長を今後も見続けていたいという切望。

問六 「波が迫ってきた」（——線部E）とありますが、この表現の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 脈打つ痛みを「波」という特殊な表現を用いて描くことで、現実と非現実の境界線がわからなくなるほど「僕」が精神的に衰弱していることを示している。
- 2 胸が半分になったと感じるほどに呼吸が苦しくなる様子を「波」という自然物を用いて表現し、その後に描かれる遊園地の人工的な風景との対比を強調している。
- 3 発作によって呼吸が苦しくなり、胸が圧迫されて体が呑み込まれていくような切迫した感覚を「波」として表現し、迫りくる苦しさを印象づけている。
- 4 息子の必死の姿に胸を揺さぶられ、感情が大きく高まり制御できなくなる心の動きを「波」として表現し、父親としての強い感動を示している。

問七 「そのことだけが、ほんとうだった」（——線部F）とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「僕」が夢の中で見た「懐かしい街」や「遊園地」は実際に「僕」の目の前に存在するものではなく、意識を失った「僕」が見た想像上のものであり、意識を取り戻した「僕」が涙を流していたことだけが事実であるということ。
- 2 咳き込んだ「僕」が感じた海の底に沈むような感覚は「僕」の現状を表したのではなく、「哲生」の試合を観戦する中で体調を悪化させてしまったということだけが真実であるということ。
- 3 意識を失った「僕」が見た「メリーゴーラウンド」を見つめる「少年」と「少女」は幼い頃の「僕」と「恵理」であるように思えるが、これは実際の「僕」の記憶とは異なる光景であり、「僕」の理想を描き出したものであるということ。
- 4 「僕」と「恵理」が息子の試合を一緒に応援する仲睦まじい夫婦であることは事実ではなく、「僕」の体調が悪化し、涙を流しながら意識を失ったことだけが本当であるということ。

問八 本文の内容・構成・表現の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 地の文（会話文以外の部分）が三人称視点で語られることによって、主人公である「僕」の心情が鮮明に表現されている。
- 2 「波」の比喻を用いて「僕」の体調を表現することによって、物語がすべて「僕」の夢であることを暗示している。
- 3 「僕」と「恵理」の会話を中心にして物語を描くことで、人との関わりによって病気との向き合い方が変わる「僕」の様子を描いている。
- 4 中盤以降の「僕」の言葉に付されている「——」は、「哲生」の姿を見ることが抱いた「僕」の思いの切実さを強調している。



↓ここにシールを貼ってください↓

| 受 験 番 号 |  |  |  |
|---------|--|--|--|
|         |  |  |  |

|     |  |
|-----|--|
| 名 前 |  |
|-----|--|



2026年度 須磨学園中学校 第2回入学試験解答用紙 国語

|     |  |     |  |    |  |    |  |    |  |    |  |
|-----|--|-----|--|----|--|----|--|----|--|----|--|
| ※   |  |     |  |    |  |    |  |    |  |    |  |
| 問八  |  |     |  |    |  |    |  |    |  |    |  |
|     |  |     |  |    |  |    |  |    |  |    |  |
|     |  |     |  |    |  |    |  |    |  |    |  |
|     |  |     |  |    |  |    |  |    |  |    |  |
|     |  |     |  |    |  |    |  |    |  |    |  |
|     |  |     |  |    |  |    |  |    |  |    |  |
|     |  |     |  |    |  |    |  |    |  |    |  |
|     |  |     |  |    |  |    |  |    |  |    |  |
|     |  |     |  |    |  |    |  |    |  |    |  |
|     |  |     |  |    |  |    |  |    |  |    |  |
| 120 |  | 100 |  | 80 |  | 60 |  | 40 |  | 20 |  |

|    |
|----|
| ※  |
| 問七 |
| ①  |
|    |
| ②  |
|    |

|    |
|----|
| ※  |
| 問六 |
|    |

|    |
|----|
| ※  |
| 問四 |
|    |
| 問五 |
|    |

|    |
|----|
| ※  |
| 問二 |
|    |
| 問三 |
|    |

|    |
|----|
| ※  |
| 問一 |
|    |
|    |
|    |
|    |

(※の欄には、何も記入してはいけません)

一



|    |
|----|
| ※  |
| 問八 |
|    |

|    |
|----|
| ※  |
| 問六 |
|    |
| 問七 |
|    |

|    |
|----|
| ※  |
| 問四 |
|    |
| 問五 |
|    |

|    |
|----|
| ※  |
| 問二 |
|    |
| 問三 |
|    |

|    |
|----|
| ※  |
| 問一 |
| a  |
|    |
| b  |
|    |

(※の欄には、何も記入してはいけません)

二

|      |   |   |      |
|------|---|---|------|
| ※    |   |   |      |
| 問九   |   |   |      |
| g    | e | c | a    |
|      |   |   | (った) |
|      | f | d | b    |
| (らす) |   |   |      |



2026SUMAJ0210

|   |
|---|
| ※ |
|---|

|   |
|---|
| ※ |
|---|

|   |
|---|
| ※ |
|---|

